

子どもの国だより

Vol. 10 発行2004年10月

2004年4月～2004年9月までの活動

ゆめの木教室 放課後学習支援

小学生 月曜日～金曜日 14時～18時

中学生以上 都合の良い日を決めて個別対応

夏休み期間 7月20日～8月31日(お盆休み 8月9日～8月15日)

小学生 月曜日～金曜日 13時～17時

わくわく教室 体験学習 (第3土曜日 15時30分～17時)

そら 中学就学年齢以上の子どもの自立支援 (水曜日 18時30分～20時)

ふれあい家族教室 文化庁委嘱協力事業「親子参加型日本語教室」

交流会 (第3土曜日 18時～)

家庭訪問(保護者との話し合いが必要な場合、随時実施)

子どもたちの活動月報の作成・配布(毎月各家庭に配布)

理事会 (隔月1回)

事務局会議 (毎月1回)

スタッフ会議 (第1土曜日)



平成 16 年度上半期の活動を振り返って

暦の上では仲秋の名月も早すぎて、野山に美しい紅葉が待たれる頃となりました。

みなさまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は NPO 法人子どもの国の活動にご支援を賜り心よりお礼を申し上げます。

さて、平成 16 年度も半年が過ぎました。今年度の活動は、放課後学習支援「ゆめの木教室」、中学就学年齢以上の自立支援「そら」、体験学習「わくわく教室」(文化庁委嘱協力事業「ふれあい家族教室」と共催)、交流会(文化庁委嘱協力事業「ふれあい家族教室」)を行っています。

平成 16 年度は学校、保護者、地域との連携強化を目指して活動をしています。その大きな 1 歩として、春より「ゆめの木教室」参加者の出欠表を毎月、西保見小学校と東保見小学校へ提出し、気がかりな子どもたちについて情報交換を行なっています。

また、「ゆめの木教室」では今年度より担当制を始めました。8 名の担当者がそれぞれ自分の担当する子どもの月報を作成し、翻訳した月報を各家庭へ毎月配付しています。保護者の方も自分の担当者を覚え、気軽にいろいろな相談を持ちかけてくださるようになりました。また、担当者はその子のカルテを作成、子どもの学習進度を把握した上で、学習目標を子どもと話し合っています。

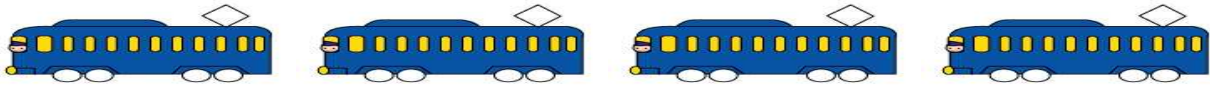
本年度後半もスタッフ一同力を合わせて、子どもたちのためにより良い活動を展開して行きたいと思います。

どうぞ、ご指導の程、よろしくお願い致します。

平成 16 年 10 月吉日

NPO 法人 子どもの国 理事長





この夏は大冒険！

豊田市中央図書館

7月22日は豊田市中央図書館に行きました。

図書館へ出かけるにあたり、まずは注意事項など話合いました。「図書館では騒がない、走らない。」等、話し合いの中ではきちんとした意見を述べていたのですが、図書館へ入るやいなや、大声を出し、注意を受けた子どもたちでした。

しかし、それぞれカウンターで事前に準備してもらっていたカードをもらって、「子ども図書館」に入った後は、皆真剣に本探し。昨年も感じましたが、予想以上に子どもたちは本が好きで、さまざまな一面を見せてくれます。スタッフの手を借りることなく、カウンターへ自ら質問に行ったり、自動検索機を使って本の場所を探し出したり、一人で本を借りたり、返却したり、皆積極的で自主的です。

A君は子ども図書館に入るなり、床に座って一冊一冊じっくりと目を通していました。その集中力は日ごろ見られないものでした。B君はハリーポッターを借りたいと言ってカウンターで検索してもらいましたが、日本語の本は貸し出し中。いつの間にか自力でポルトガル語版のハリーポッターを2冊探し出していました。

1時間ほど図書館にいる間に、皆いつの間にかたくさんの本を探し出し、両手いっぱい抱えてきました。

たとえばC君の借りた本を紹介すると・・・

中国の歴史 3冊

与謝野晶子

高村光太郎と智恵子 他2冊

漫画仕立てとはいえ、与謝野晶子や高村光太郎を借りてくるとは、少々驚きでした。

豊田市民芸館（絞り染め）

7月28日は豊田市民芸館に行き、絞り染めを体験しました。

まずは民芸館の教室で、指導者の方の説明を聞きました。洗濯バサミや輪ゴムを使う、簡単な絞り染めの方法も教えていただきましたが、子どもたちが一番興味を示し、熱心に取り組んだのは、絵を描き、糸で縫い絞り上げる方法でした。しかもピカチューなど複雑な下絵を描いていたので、皆悪戦苦闘していました。中には途中で飽きてしまったり、縫うことを

あきらめてしまう子どももいましたが、最後まで粘ったのがD君でした。いつもは集中力のないD君ですが、創作活動になると、驚くほどの集中力をを見せてくれます。

絞った後は染色です。子どもたちはエプロンをつけ、ゴム手袋をし、白い布を染色液につけました。しばらく液につけた布を水で洗うと、きれいな藍色やオレンジ色になりました。子どもたちは早く自分で作った模様が見たくて、洗濯バサミや輪ゴム、絞り上げた糸などを急いではずしていきました。LOVE という文字を絞ったEちゃん、ハートに翼の模様を絞り上げたFちゃん、それぞれ模様が染め上がったのを見て、とても満足した様子でした。



日進市運動公園プール

8月3日は子どもたちが楽しみにしていたプールの日です。

プールに行くにあたっては、さまざまな危険を想定しなければなりません。そのために、まずスタッフをリーダー、高学年を副リーダーとする4人程度のグループを作りました。グループ分けの後には、「グループ毎に行動し、自分勝手に何処かに行かない。」「プールサイドを走らない。」等、注意事項について話し合い、教室を出発しました。

プールに入る前は、約束どおりグループ毎にしっかり準備体操をしました。副リーダーがあまり大きな声で掛け声をかけるので、「恥ずかしかった。」と感想を漏らすスタッフもいました。

その後はお目当てのプールに一目散。高学年の男の子はまず深いプール、女の子達は流水プールへ行きました。中には、飛び込み禁止なのに飛び込んで監視員の方に注意を受ける子ども、勝手に動き回りリーダーであるスタッフを困らせる子どももいましたが、得意な？泳ぎを披露したり、ふざけたり、皆本当に楽しそうでした。学校でもプールに入ることのできる子どもたちですが、ゆめの木教室からスタッフとともに行くプールは、子どもたちにとって、夏休みの大切なイベントのひとつとなっているようです。

豊田市郷土資料館

8月17日は豊田市の郷土資料館へ行きました。郷土資料館では、古代の人々が使っていた道具を体験しながら、スタンプラリーができるようになっていました。黒曜石の石器を使って紙を切ったり、土器の破片に触れたり、銅鐸の高さを予測したりしながら、そのつどスタンプを押していきます。中でも一番人気があったのが、火起こし体験です。木の棒をこすり、煙がでてくるまで、飽きることなくチャレンジしていました。

郷土資料館には他にも様々な展示物がありますが、子どもたちはそれらの展示物にも興味を示していました。G君はお茶を臼で挽くことに夢中になっていました。蚊帳の中に寝そべってみる子どもや、硬くて高い昔の枕に驚く子ども、急須だと思っていた物が実は昔のアイロンだと知ってビックリする子どももいました。多くの意外な「物」たちとの出会いは、子どもたちにとって貴重な体験になったようです。

陶磁資料館（ふれあい家族教室）

この夏最後のおでかけは瀬戸市にある陶磁資料館。ろくろを回して、ちょっと本格的にカップや置き物を作ろうと企画したものです。久しぶりに公共の交通機関をつかってのおでかけで、去年電気の科学館や東山動物園に同伴したスタッフは少し恐怖感を感じていました。（今年はどうなるんだろう・・・）前もっての話し合いは驚くほどスムーズに。子ども達は勝手に分かっているので、グループ作り、ルール作りと手際よく決めていき、スタッフは子ども達の成長ぶりに満足。（今回はスタッフもゆっくり楽しめるかも・・・）

当日、時間通りに子ども達が集合。（いいじゃん、いいじゃん、いい調子）が、出かける前にスタッフから日程の説明を受ける時から雲行きはあやしくなってきました。男の子達はルール決めの時に「余分な物はもって来ない」と決めたはずのゲームに夢中。女の子達はおしゃべりに夢中。（やれやれ・・・）

バスの時間に間に合うように、いざ出発。東保見小前からバスに乗って愛知環状鉄道保見駅へ。電車に乗って八草駅下車。そこからまたバスに乗り換えて目的地の陶磁資料館に到着。いくつかのトラブルはあったものの、まあ順調にやってこれました。（これくらいならかわいいもんだわ）

資料館ではまず係りの人から作陶の説明を受けました。最初に注意事項の説明。「ろくろを勝手に回さないでください」と言ってるそばから子ども達はクルクルとろくろを回し、「こらこら、回さないでっていわれてるでしょ！」とスタッフは止めるのに躍起。（たしかにおもしろいけど）係りの人がカップ作りを実演しながら手順を説明してくれる間はみんな身を乗り出して聞いていました。このころから子ども達は真剣モードに。手順を教えてもらって、いよいよ自分の作品作りに挑戦。実演して見せてもらったものの、実際やってみるとやり方が分からなくなってスタッフに助けを求める子が続出。でも、やり方が分かってくると子ども

達の創造力はさすがです。小さな陶芸家たちは次々と作品を作り上げていきました。焼きあがるのは一ヶ月後なのですが、どの作品も出来上がりが楽しみなものばかりです。子どもの物作りの力はほんとすごいです。

作品を作り上げた子ども達は緊張の糸が切れたのか、自分勝手に行動する子が出てきてしまいました。(怖れていた事が・・・)記念に写真撮影をしようというのに、走り回ってなかなか集合できない子、バスを待つ間に勝手にどこかへ行ってしまう子、電車の待ち時間にスタッフから配られたキャンディの包み紙をポイ捨てする子、電車の中であちこち動き回る子、あげくは保見駅から勝手に団地へ歩いていってしまう子・・・・・・ それでもみんな予定どおり無事に集会所に帰りました。おやつを食べながら反省会を開き、勝手に行動してしまった子はそれなりに反省。(今回は帰りがひどかった)子ども達が最初から最後まできちんと行動できるようになるにはもう少し時間がかかるのかもしれないな、成長を待ちましようということで、今回のおでかけは終了。同伴のスタッフの皆さま、本当にお疲れ様でした。でも、楽しめましたよね！



平成16年度 上半期「そら」の活動を振り返って

「そら」は、中学就学年齢以上の子どもたちに、『自分について考える機会』『自分の職業について考える機会』『自分がこれからつきたい職業について考える機会』を与えることを目的に活動しています。

「そら」に来ている子どもは様々な経験を持っている子です。暗い過去を背負っている子も少なくありません。

そんな一人一人の子どもをより深く理解するために、新聞の記事について討論会を行ったり、心の相談カードを作成したり、一緒に料理をしたりと様々な取り組みをしてきました。夏には、NPO法人保見ヶ丘国際交流センターの方の協力を得て、夏祭りの屋台の手伝いに参加させてもらいました。

子どもたちは普段見せることのない生き生きとした姿で働き、「人の役に立っている」という充実感が子どもたちを輝かせていました。

また今年度は、活動開始前に事前勉強会を開き、地域の民生児童委員、主任児童委員の方と子どもたちを取りまく地域の問題について話し合いました。こうした話し合いを通して、今後より一層、地域の皆様方の声の届く距離で活動を出来ることを切に願っています。

現在、そらに通っている子どもは15人ほどです。子どもたちが薬物や傷害などの事件に巻き込まれることなく、仕事に就き、落ち着いた環境で暮らせるように、サポートの在り方を考えていく必要性を感じます。そして今後も、彼らと共に考え、悩み、その思いを共有し合いながら、人生を前向きに考えられる機会をより多く提供したいと考えています。

頼もしい新スタッフを紹介します。

初めまして。「子どもの国、ゆめの木教室」の新人スタッフ 〇〇〇〇 です。 大学で国際社会というコースを専攻しています。夏はみなさんとプールや、陶磁資料館へ出かけました。とても楽しく参加しています。ゆめの木教室では、他のスタッフの方々からの指導を受けながら、子どもたちとどんな時間を過ごすことができるのかを考えて、心地よい居場所づくりをお手伝いしていきたいと思っています。

大の 〇〇〇〇 です。何か人の役にたつことをしたいと思っていたところ、大学の先生に保見団地のことを伺い、6月頃から子どもの国の活動に参加させていただく事になりました。私は今まで子どもと接したことはほとんどなく、また人に勉強を教えたこともありませんでした。そのため、子どもたちと仲良く勉強できるだろうかと不安でしたが、実際に子どもたちと会ってみると私に親しく話しかけてくれてとてもうれしかったです。まだまだ至らない点も多いと思いますが、子どもたちが楽しく勉強できるようにがんばっていきたいと思います。よろしくお願ひします。



NPO法人 子どもの国

ホームページ <http://www.kodomonokuni-aichi.org/>
メールアドレス kodomonokuni1999@yahoo.co.jp